

凍霜害後の管理について

2021年5月17日
JA中野市園芸課

4月の低温（長丘観測 最低気温 4/6 -3.7℃、4/10 -3.3℃、4/11 -4.2℃、4/27 -3.2℃）により果樹中心に凍霜害が確認されております。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。下記内容をご覧いただき、減収を最小限に抑えられるよう管理をお願い致します。

●果樹

【 共通事項 】

- ・地域、園地、品種により被害状況が異なる。
- ・生育の進んでいた園地や品種の被害が大きい。
- ・樹の上下や同じ園内でも被害程度が異なる場合があるため、園地全体、樹毎の被害程度を確認する。
- ・新梢伸長が旺盛になり樹冠が暗くなると来年の花芽着生への影響が心配されるため、夏季新梢管理を徹底する。（摘芯、捻枝など）
- ・例年通りの施用量で施肥（追肥、礼肥、元肥）は行わず、樹勢を見ながら施用量を調整（減肥）し、適樹勢を維持する。

【 品目別 特記事項 】

リンゴ

- ①被害の大きい園地や品種は、結実を確認（がく立ち）してから摘果作業を行う。
- ②樹冠上部の被害が少ない場合は、着果数を上部に多め、下部を少なめにする 것도可能。
この場合、来年の花芽着生への影響を考慮し、樹冠上部30%増までを目安とする。
- ③中心果より側果の生育が良い場合は、側果を残す。傷んだ中心果より健全な側果の方が肥大は期待できる。
秋映等でサビの心配はあるが、肥大を優先する。
- ④えき芽果は原則利用しないが、頂芽がすべて結実しない場合は、えき芽果の利用も考える。
- ⑤被害が少ない場合は、早めに摘果（摘花）を進める。

核果類（モモ・プラム・サクランボなど）

- ①結実が判明している品種の内、結実良好な品種、被害の少ない品種から摘果作業を進める。
- ②被害が大きい場合は、予備摘果を行わず、樹冠の上下・着果位置に拘らず果実を残し、着果量を確保する。
- ③モモ「川中島白桃」、プラム「太陽」、サクランボ「佐藤錦」など生理落果する品種は、結実が確定するまで摘果作業を行わず様子を見る。
- ④核割れ・核障害の発生が多くなり、成熟前進・日持ち性低下が予想されるため、収穫前管理・収穫時の注意が必要。

和梨（幸水、豊水、南水など）

- ①被害が大きい場合は、予備摘果を行わず、番果に関係なく果実を残し、着果量を確保する。

ぶどう

- ①枯死した芽は早めに芽かきを実施し、副芽の伸長を促す。
- ②芽かき終了後、下記の葉面散布剤のどちらかを使用し発芽の促進をする。

資材名	散布倍率	散布時期
メリット青	300倍	展葉2～3枚頃・展葉6枚
オルガミン	1,000倍	展葉2～3枚頃・展葉6枚

●花き

アスター

定植後、低温に遭遇した場合は、5月下旬の防除の際にメリット青600倍を混合し生育を促すようにする。

ご不明な点は、園芸課・各品目担当技術員までお問合せください。（園芸課 TEL 23-3933）